

令和元年度第1回三木市総合計画策定審議会の概要

(委員意見部分)

日時：令和元年5月29日(水)

午後1時30分

～午後3時30分

会場：三木市役所5階大会議室

(委員)

- ・全体として、「将来のあるべき姿」と「現状と課題」という作りで理想と現実を比較し、その差を埋めていくための取組を行うという分かりやすい構成になっている。
- ・それぞれの項目について「指標・目標値」は、これだけで良いのかというところも見られるので、各担当部署で見直しや追加の検討が必要であると思う。
- ・資料2-1の1ページ目では、チーム三木の構成を「市民、議会、企業、団体、行政が一体となった」と、市民を最初に挙げている。一方で、資料3の基本計画のページで「チーム三木の取組」を見ると、最初に「市役所が進めること」が書かれている。これでは、行政と市民のどちらが主導になるのか分からないという疑問が出るかもしれないので、並びを統一することも検討していただきたい。
- ・基本構想の構造について、柱や枠組みの番号を「(1)」や「①」のように変えると、より分かりやすくなる。

(委員)

- ・前回の審議会で述べた優先順位やメリハリが良く反映されている。
- ・基本計画については、どのページにも「指標・目標値」が示されている。
- ・優先順位の観点から意見を述べると、「何から先に手を付けるのか」と「どこに予算を多く配分するのか」という、時間と予算の2つの問題がある。現段階では「指標・目標値」を見ても優先順位が分からないので、それが分かるように工夫した方が良いと思う。

(委員)

- ・三木市の現状は非常に厳しい状況で、これから2、3年という短い期間でも高齢化がさらに進む。そして、高齢のために農業を続けられないという方が

非常に増えてきている。そういった将来も考慮して、具体的な目標を設定していただきたい。

- ・資料3の「企業・団体等が進めること」及び「連携する枠組み（施策）」の中には、「各種協議会への参画」と書かれており、そういった協議会についても具体的な目標を持って開催していただきたい。
- ・三木市は、全国的に見ても歴史的に重要な土地であるという話を聞いた。昔、都から逃げて志染にたどり着いた2人の皇子が後に天皇になり、その血筋が現在の令和天皇まで続いている。また、日本酒の原点である神社も三木市にあり、その土地で山田錦を作っている。そういった歴史も合わせて三木市をPRしてほしい。

(委員)

- ・資料3の7ページ「子育て総合支援」の「現状と課題」において、「孤独な子育て環境にある親の問題があります。」と書かれている。他の部分では「家庭」という言葉が使われており、この部分だけ「親」と書かれていると、親の問題であるような誤解を受けるかもしれないので、特別な意図が無いのならば他と同様に「家庭」と記述した方が良い。
- ・同ページの「子どもへの虐待問題が深刻になっており」という文言は、三木市においてか、全国的なことなのかが分からない。また、非常に衝撃的な内容であるので、「近年、子どもへの虐待問題が深刻になっており」とするなど、表現を変えていただきたい。
- ・資料3の50ページ「公共交通」は、おそらく市民の方が最も関心のあることである。特に「市役所が進めること」の中の「地域に密着した効率的かつ持続可能な新たな交通手段の導入検討を進めます」という一文については、どの地区から導入するのか、行政が主導となるのかなど、市民も気になることが多いと思う。こういった市民が重要であると思っている事業の優先順位については可能な限り記述して、市民に示すようにしていただきたい。

(委員)

- ・資料2-1の13ページの中で市民が重要と思うにもかかわらず、満足度が低い「【社会基盤】電車やバスなど公共交通の利便性」と「【行政】市税などの収入確保による健全な財政運営」の2点に注目しながら資料3を見ていると、49ページ「公共交通」の「指標・目標値」に「公共交通をこれまでより1回でも多く利用する」という目標を立てているが、この目標が何を意図して

いるのか分からない。三木市民に公共交通を好きになってもらうという点においては、良い目標なのかもしれないが、仮に三木市民5万人が、1回多く公共交通を利用したとして何が変わるのか疑問である。それならば、公共交通機関を利用して通勤している市内就業者の割合や、それを高めるための目標などを立てるべきである。

- ・資料3の55ページ「公共施設マネジメント」における「指標・目標値」についても、公共施設の延床面積の削減という目標があるが、市民の方には、目標値の算出根拠や公共施設の面積を削減することの必要性が分からないのではないかと思うので、それらを説明できる資料などが必要である。
- ・資料3の77ページ「産業振興」における「指標・目標値」は、「新規企業の誘致など、工業の振興」に対する満足度」など市民アンケートの満足度が目標値として書かれているが、そうではなく、誘致した企業の数など明確な目標を立ててはどうか。市民アンケートの結果が、適切な指標になるのか疑問である。また、このような目標であると実際の責任部署も分からない。
- ・資料3の89ページ「行政経営」における「指標・目標値」について、「年平均利回り」というのは、同ページの「将来のあるべき姿」や「現状と課題」にどう対応しているのかと疑問である。また、運用で増やすだけではなく、公共投資の更新投資において効果的な方法を採用し、支出を少なくすることなどを目標にした方が良いのではないか。
- ・資料3の91ページ「業務改善」の「指標・目標値」である「自治体クラウドの導入」自体は、予算をかければ実現できることなので、実現した先の目的に関するものを「指標・目標値」とすべきではないか。業務改善に関することなので、業務の効率化や市民サービスの向上についての具体的な目標を設定しなければならない。
- ・三木市に在住の方は、三木市のふるさと納税の返礼品の対象にはなっていないが、ゴルフ場の利用券などは市内のゴルフ振興につながるもので、三木市民も、三木市のふるさと納税の返礼品の対象にするのも良いと思う。

(委員)

- ・資料3の15ページ「青少年育成」について、青少年補導委員に関する記述があるが、青少年補導委員の中には事務的に充て職としてこなしているような人も見られ、そういった人は青少年と友好的に関わろうという姿勢が見られないのが残念である。また、青少年補導委員の担い手が少なく、現在はPTAのOBが青少年補導委員を務めているが、根本的に担い手不足を解消す

る仕組みを作る必要がある。

- ・資料3の38ページ「生活困窮」の中で、ひとり親家庭への支援が記述されているが、ひとり親家庭が地域から取り残されない仕組みについても考えてほしい。市民活動などに参画できれば地域との関わりが生まれて支援も受けられるかもしれないが、市民活動に参画できない方もいるので、そういった方も地域のコミュニティの中に入っていけるような仕組みがあれば良いと思う。また、ひとり親同士で会ってつながりを持てるような場や、ひとり親家庭を支援する取組についてもこれから増えていけば良いと思う。こういった取組が育児に関する社会問題の発生防止につながると考える。
- ・資料3の60ページ「住環境」における空き家対策の記述に関連することで、市外の社会福祉協議会で空き家対策に係る講座を開いており、それを受講した市民が自主的に地域の空き家対策や活用を行っていると聞いたことがある。市民の中には、空き家の活用に参画したいという方もいると思うので、そういった方に講座を受けていただき、市民参画による空き家対策のプロジェクトチームができれば良いと思う。

(委員)

- ・資料3の中で「市民が進めること」とあり、市民の積極的な参画を期待しているが、最近、自治会に加入せず、地域の関わりや助け合いの輪に入らない人が年齢を問わず増えている。また、自治会に加入している方の中にも仕事や育児を理由に自治会の役職を引き受けないという人も多い。
- ・公共交通の維持存続や環境の面からも公共交通機関の利用を促進しなければならないにも関わらず、本数が少ないなど利便性の低さを理由に自家用車を使い続ける人が多く、時代に逆行しているように感じる。一方で公共交通機関が、利用者の減少により運行本数を減らしたり停車駅を減らしたりすると車を運転できない高齢者の移動が困難になり、地域の集まりに参加できなくなる。
- ・「市民が進めること」というと、市民それぞれがどこまで参画できるのかは分からないが、私の地区には、私を見かけると近くまで来て元気に挨拶をしてくれる子どもがいる。このような子どもを育てる親がこの地区に住んでいてくれてうれしいと思った。こういった家庭が増えれば自治会への積極的な参加や「市民が進めること」に書かれていることにも参画できると思う。
- ・私の地区の青少年補導委員は、子どもたちとコミュニケーションがしっかりとれており、悪さをする子どもが減っているので、頑張ってくださいっている

と感じている。

(委員)

- ・ 前回策定した三木市総合計画の策定審議会に委員として出席した際、高齢のため車に乗ることができない委員が、公共交通のことについて多くの意見を出していた。それから10年以上経った現在、車に乗れない辛さが自分も分かってきた。公共交通機関を利用するにしても、例えば神戸電鉄三木駅では、昼間ならば電車は1時間に1本しか運行していない。採算と利便性のことを考え、公共交通網の整備を具体的に記述してほしい。また、バスについても、より効率的な路線を検討した上で計画に取り入れてほしい。
- ・ 消費者協会の委員なので、ごみ問題の会議にも出席しているが、行政の対応として「ごみが出たら対処する」というものがほとんどである。市民にごみの減量を呼び掛けるなどの予防的な取組が必要ではないかと思う。
- ・ 大学を卒業した子どもが就職を機に市外へ転出するという話を地域で聞き、市内での働く場所の誘致や整備を行わなければならないと感じた。
- ・ 高齢者の中には、インターネットやスマートフォンといったものを使いこなせない人が多い。また、キャッシュレスの時代が到来しており、詐欺との区別がつかないという高齢者が多いと思うので、行政でも講習などを行い、高齢者も安心して暮らせるようにしていただきたい。
- ・ みきで愛サポートセンターで活動しているサポーターの方はボランティアであるが、その方たちが活動する上で必要となる経費の補助や報酬について、ある程度具体的に記述することで、サポーターになる人が増え、三木市で結婚して定住してくれる若者が増えればいいと思う。

(委員)

- ・ 2-1の15ページには、「～チーム三木（市民・議会・企業・団体・行政）による協働のまちづくり～」と書かれているが、16ページでは、「地域資源を生かしたチーム三木（市民・議会・企業・団体・行政）による協働のまちづくり」と書かれている。「地域資源を生かした」という一文の有無で意味が変わってくるので、どちらかに統一した方が良く考える。
- ・ 5月28日の川崎市での殺人事件や、自動車の暴走事故などを目の当たりにすると、健康と同じように当たり前に感じている安全の重要性を改めて感じる。そういった視点で資料3を見ていると、27ページ、28ページ、57ページ及び58ページに防犯や交通安全についての記述があり是非とも効果

的な施策を実施してほしい。例えば27ページ「安全・安心」の「指標・目標値」において、人身事故件数が2024年には400件、2029年には380件となっている。一方、「将来のあるべき姿」において「交通事故のない社会をめざす」という趣旨の記述があるので、人身事故件数0件が目標になるのではないか。仮に2024年の人身事故件数が390件ならば、目標を達成したと言って喜べるのか。また、そもそも人身事故件数400件という目標値が妥当なのかも疑問に感じる。妥当な目標値であったとして、2024年から2029年の5年間で5%減少を目標としている一方、資料2-1の17ページに掲載されている目標人口を見ると、1年間ずれているものの2025年から2030年で人口が5.2%減少している。これを見ると、人身事故件数の減少は人口減少に頼っているように見え、結局は何も努力していないと思われかねない。

(委員)

- ・資料3の3ページ、4ページ「出会いサポート・結婚支援」に関連することで、赤ちゃんとの触れ合いや育児体験を交えた婚活パーティーがあるが、北播磨では開催されたことがないので、三木市でも開催してはどうか。また、小学生の子どもを持つシングルマザーの友人が、「子どもがいても婚活をできるのか。」と言っていた。そういった方へのサポートがあれば、積極的にPRしていただきたい。
- ・7ページ、8ページ「子育て総合支援」について、普段保育園に預けていない子どもを一時的に預かってもらう時に、預け先がなく困っている方が身近にいたので、そういった方へのサポートも考えなければならない。
- ・49ページ、50ページ「公共交通」について、本来は広野ゴルフ場前駅や志染駅の方が近いが、普段は緑が丘駅を利用するという人がいる。それは、緑が丘駅に比べて、広野ゴルフ場前駅や志染駅は、駅までの道や駅周辺の利便性が低いためである。電車そのものの利便性も重要であるが駅周辺の道路の整備や、利用者の少ない駅については周辺の駐車場を無料にすれば利用者も使いやすくなると思う。
- ・57ページ、58ページ「防犯・防災」について、三木市には兵庫県広域防災センターがあるので、「指標・目標値」に防災士やひょうご防災リーダーになった人数を入れれば良い。
- ・空港やカジノには、比較的狭い間隔でAEDが設置されていて、急病人にもすぐに対応できるようになっている。そのため、公共施設はもちろんコンビ

ニなどの民間施設にもAEDを設置すれば急病人を救うことができるかもしれないので、AEDの設置数についても目標値を設定してはどうか。

- ・ 67ページ、68ページ「ふるさと納税」について、三木市は自分の市にふるさと納税をしても返礼品がもらえないと知って残念に思ったが、三木市の返礼品の中に折りたたみヘルメットを見つけて、防災のまちらしく非常に良いと思った。しかし、返礼品の説明欄には、ヘルメットの説明しか書いていなかったのので、防災のまち三木をアピールしても良いのではないかと。
- ・ 73ページ、74ページ「情報発信」について、広報みきにもあったがるるぶに三木市のページが掲載されていた。また、お笑い芸人が神戸電鉄に乗って有馬温泉や三田に行く番組が放送されていた。テレビで紹介された観光スポットに行くのが趣味の方もいるそうなので、三木市にも目に見える観光スポットがあれば、観光客も増えると思う。
- ・ 97ページ、98ページ「生涯活躍」に関連して、父が高齢者大学に通い始め部活動などがあり非常に楽しかったと聞いている。高齢者大学の費用が非常に安いのは高齢者の経験や知識を三木市に還元するためと聞き、どうすれば還元できるのかを考えていたが、卒業後に何かをしようと思い、市に相談しても断られることが多いと聞いた。そのため、もう少し柔軟に受け入れ、サポートしてくれる体制があってもよいのではないかと。

(委員)

- ・ 資料2-1の15ページの「まちの将来像」の文章の中に、「誇るべき歴史、文化、自然、産業」とある。歴史に関しては、三木城ができてから500年という年数が経っている。以前、「まちを創っていくには、まちができるまでに経過した年数と同じだけ先の年数を見据えなければならない。」という話を聞いた。本来ならばもっと長い歴史があるが、500年かけて今の三木市があるとすれば、500年先の未来を思い描いてまちづくりに着手するくらいの気概が必要である。
- ・ 同ページで、「誰もが誇りを持ち、さらには他の人が困っている時には手を差し伸べることができる」という文章があるが、この部分が上から目線のように感じる。困っている人に気付く、気付き合えるまち、そして「手を差し伸べる」のではなく、市民と行政が対等に助け合えるということが必要ではないか。
- ・ 資料3の「指標・目標値」については、責任部署を明らかにしてもっとシビアに目標値を設定すべきである。そして、目標を達成できなかったときに

は、改善策を考え対応することが重要である。例えば、いじめについても、不可能なのかもしれないが目標値を0に設定すべきであるし、どの学校の校長もいじめの発生件数は0を目標にしているはずである。結果的にいじめが発生した場合にはなぜ起きたのかを検証すべきであり、そういった観点で「指標・目標値」を再度検討していただきたい。

- ・資料3の49ページ「公共交通」について、「誰もが気軽に移動できる環境により、あらゆる世代が住み続けたいなるまち」というのは、将来あるべき姿として素晴らしい考え方であると思う。「誰もが」と「あらゆる世代」という言葉が、これからのキーワードになってくると思う。ユニバーサル化という視点を入れていくことによって、誰もが住みやすくなるまちになると思う。私たちも、チーム三木で目標達成に向けて取り組んでいきたい。

(委員)

- ・審議会として計画が総花的になるのは十分理解できるが、本当にこれらのたくさんの問題をクリアできるのか疑問に思う。結局、何ができるのかと考えたら、精査して三木市がこれから取り組むべき問題のみを「心の優しいまちにしよう」といったスローガンでいいので、わかりやすいほうがいいと思う。
- ・資料3では、「企業・団体が進めること」というのがあり、企業・団体の協力・協賛を依頼するようなものばかりであり、上から目線のように感じる。企業も地域を良くしたいと思っているが、あれしろこれしろと言われているように思われるのではないか。目標がこんなに多いと、三木市の規模でやっていけるのか心配になる。もう少し市民にわかりやすい、みんなで頑張ることができる目標が良いと思う。

(委員)

- ・どの優先順位で、いつから始めるのかということが気になった。その中でも、申し上げたいことが3点ある。
- ・資料3の25ページから42ページまでの柱「安心して暮らせるまち」について、現在これほど高齢化社会となっており、語弊があるかもしれないがこれからは「安心して死ねるまち」であると思う。
- ・資料3の50ページ「公共交通」について、自分が高齢になった時を考えると、運転免許証を返納した後、病院やスーパーは近いが、三木市役所までの公共交通が不便である。先日OB会が、三木市役所に比較的近い三木山森林公園で開催された。久しぶりに会う友人とお酒を飲もうと思い公共交通を調

べたところ運行本数が非常に少なく、OB会の終了時間によっては長時間待つことになるためマイカーで行った。不便だから利用者が少ないのか、利用者が少ないから不便になるのかというのは難しい問題であるが、改善に期待したい。

- ・資料3の70ページ「観光・交流」の三木市の観光資源にかかる体験事業について、「肥後守」や「日本酒ツアー」など非常に面白いが、人に来てもらおうと思うならば、テレビなどのマスコミを通じたPRや、楽しく食事ができる場所がもっと必要である。

(委員)

- ・農業従事者の高齢化が進行しており、60歳以下の農業従事者が非常に少ない。また、代替わりした息子が、農地を受け継いだものの農業をしていないというケースもよく聞く。次の代に引き継がれていないという状況は、農業以外の中小企業や自治会でも同じである。
- ・例えば自治会では、今の自治会の区長を知らない人が多いなど、つながりが薄くなってきている。そのような状況であると、災害時の共助に支障が出るなど危機管理の面でも問題があるので、市役所に相談したが、「計画自体が無いので予算も無い」と言われた。地域には必要なことであるので、もっと臨機応変に対応していただきたい。

(委員)

- ・高齢者という言葉が多く出ており、医療や公共交通などがあれば、確かに安心である。また、高齢者でも暮らしやすいようにと書いてあるが、高齢者にもできることがある。
- ・資料3の35ページ「市民協働」について、例えば一人暮らしの方のために電球の交換やゴミ出しをするなど、地域の簡単な困りごとであれば老人クラブでもできるので、今年度からはそういった生活支援の部分についても老人クラブとしてやっていきたい。高齢者にも、資料3の「市民が進めること」をやっていけると思う。
- ・資料3の57ページ「防犯・防災」について、老人でも犬の散歩をしながら防犯パトロールなどもできる。これからも、世話をしてもらうだけでなく、地域に貢献することもやっていきたい。

(委員)

- ・ 県民局が、これから重点的に実施しようと考えていることと三木市の方針が合っているかという視点で見ると、方針がほとんど同じであり安心した。例えば、交流人口の拡大については、県民局としても力を入れたい。しかし、資料3の70ページ「観光・交流」については、「連携する枠組み（施策）」の中に「県」という表記がなく、「関西」「北播磨地域」とあるので、他の施策と同じように「県」も表記しておいてほしい。

(委員)

- ・ 資料3の「指標・目標値」について、アンケートによる満足度が指標になるのかという議論があった。満足度を指標としているのは、実際に利益を享受する市民のことを考えて事業を行っている職員が多いからではないか。
- ・ 指標が適切かどうか、いじめや事故件数といった目標値を0とするのかについては、議論が必要である。

(委員)

- ・ チーム三木の、チームという言葉が重要であると思う。最初の審議会で、他の自治体と同じようなものではないと言っていたが、将来のあるべき姿を見たときに、10年後のイメージが近隣市町と違うというところを見せなければならない。
- ・ 資料3の「現状と課題」について、現状の良いところをもっと書いた方がよい。三木の良いところは、都市近郊でありながら農業も地場産業も盛んなところで、生活も安定している。ここは、もっと強調した方が10年後のあるべき姿が浮かび上がってくるのではないだろうか。
- ・ 将来のあるべき姿が抽象的すぎるので、もっと具体的に書いた方が良いと思う。市民に分かってもらうためには、10年後の生活がイメージしやすい記述にしたほうが良い。
- ・ 構成は良いが、「現状と課題」と「指標・目標値」との間に相関関係がないものがある。課題が出ているのだから、課題に対して相関関係のある目標を立てるべきである。例えば、課題解決のために一定の目標を立てる。しかし、市役所だけでは解決できないので、市民の方や企業の参画なども目標とする。そういった、チーム三木が一体となって取り組んでいく姿勢が大切である。

(会長)

- ・ 委員のご意見の中であった目標値について、例えば企業での不良品の率は、

理念的な目標は0であるが、現実には発生してしまう。これは、理念的な目標と現実的な目標のどちらに政策的な目標を置くかという話である。施策的には、あえて理念的な究極目標として0とするのか、行政として少しでも達成しようという現実的な目標にするのかについては、議論の余地がある。

- 理念的な目標、現実的な目標のどちらにするかといえば、どちらが良いというものではない。しかし、例えば今の「働き方改革」でも、残業が0になって喜ぶ人もいれば、残業代がなくなって喜ばない人もいる。市民目線で、「何が正解なのか」を考えて、目標に落とし込み、具体的なアクションプランを策定していかなければならない。
- アクションプランについても、各課で策定していくのか、総合計画の中で策定の手順を示すのかについても議論を重ねていかなければならない。
- 10年先、エネルギー、AI、IoTなど、どんな世界になっているかわからないが、今の目線から見て部分最適を合わせても全体最適にならないこともあるので、その点に注意しながら10年後を考えて計画していきたい。
- 今日の意見を元に計画を修正し、修正したものを住民説明会に提案する予定なので、修正については会長に一任をお願いしたい。

一同

- 異議なし